

月刊 あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2022/8/17 横須賀市教育委員会



8月号

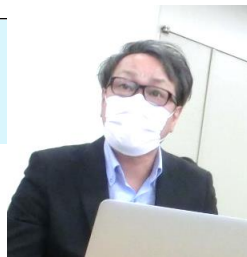
策定に関わった方の思い「市民と保護者の視点・その2」

前号に続き、計画の策定に関わった「横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会」の皆さまそれぞれの「横須賀の目指す教育の姿」への

思いや、検討を振り返ってお寄せいただいたコメントをご紹介します。

櫻井 聡 委員

横須賀市PTA協議会 会長



横須賀で働く大人たちの
背中を見せる教育を

教育フォーラムで各テーブルで必ず出たのは「横須賀が好き」という言葉でした。横須賀の子どもたちは本当に横須賀が好きで育っていくのですが、どうしても働くところがなくて横浜など市外に出て、そこで結婚し、横須賀からどんどん出てしまうことになっていると思います。

やはり、横須賀で働いている大人たちの背中が見えていないと思うのです。横須賀で働く大人の背中を見せる教育も必要だと思っています。これがあれば「横須賀で活躍したい」と戻ってきてくれる。横須賀で学び、横須賀のために頑張ってくれる、世界に発信してくれる子どもが増えていくのかと思っています。

地元愛をキーワードに子どもと大人が学び合う、そのような都市を目指すことが大切だと思っています。そこを、地域がたないでいくことができると思うのです。

実際、佐島に「へらへら団子」という郷土料理がありますが、地域の人たちが子どもたちと集まり、作り方を教えてあげています。これは、子どもの郷土での学びでもあり、大人の学びでもあると思います。しめ縄づくりもそうです。実際に地域からおじいさん方を連れてきて、みんなで学ぶ。横須賀ならではのしめ縄の作り方もあり、このような学び合いをしていくという教育振興基本計画もあっていいのかなと思っています。



地域みんなで学びあいを

この教育振興基本計画を10年と考えると、子どもはもう大人になってしまい、目指す姿を「子ども像」とすることには違和感がありました。子どもの教育と大人の教育は、シームレス、持続可能に回っていかなければいけないものだと思います。

目指す教育の姿は、願いに近いイメージ

子どもたちが自分に自信を持って他人を尊重し、横須賀が好きと思ってくれるような基本計画になればと願い、保護者の代表としてこの委員会に参加し、意見させていただきました。このように素晴らしい教育振興基本計画ができてうれしいです。

特に印象深かったのは、教育フォーラムに参加させていただいた時のことです。各世代が各テーブルで教育のあるべき姿を話し合い、横須賀市の現状や目指す姿といったものが見えてきたという印象があります。中には、「多様性という言葉でくられてほしくない。」という学生からの意見があったり、不登校で悩みながらも心の声を振り絞って話してくれた学生もいたりしました。それを見たときに、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」というスローガンがすごくすっきり、願いに近いイメージで結びつきました。

子どもも大人も幸福になる教育を

この委員会で「あなたが好き」と「私が好き」のどちらを最初にするかという議論があったとき、私自身すっきりせず、そのことがずっと心に残っていました。しかし、昨年11月に神奈川県PTA協議会で慶應義塾大学の前野先生の講演をお聞きして、すっきりしました。

前野先生は「幸福学」を研究されていますが、「利己的に生きる人間より、利他的に生きる人間の方が幸せである。」「科学的に、オキシトシンやセロトニンという幸福ホルモンの分泌は、利他的に生きる人の方が多く分泌される。つまり幸せになれる。」という話をされました。

この話を聞いたとき、「あなたが好き」「私が好き」という中身が自分の中でしっくりきました。利他的に生きることの後に自分が好きになれる、横須賀が好きになれるということで、すっきりしました。

それとともに、教育の先にあるものは幸福なのではないかと思いました。この計画がスタートして4年、8年という区切りがあると思いますが、そのときに子どもも大人も、幸福度が上がっているということを強く願っています。

次号「策定に関わった方の思い
(学校現場の視点・その1)」へ続く



Topic 横須賀市立学校 教職員の働き方改革の方針 (よこすかスクールスマイルプラン)

「よこすかスクールスマイルプラン」は、多忙化する教育現場において、限られた時間の中で、子どもと向き合う時間を十分に確保するとともに、教職員一人一人が日々の生活の質を高め、人生を豊かにし、心身ともに健康に職務を遂行することで、質の高い教育活動を実現することを目的として定めた方針です。

マネジメントを意識した業務改善を行うことで、教育委員会規則に基づいた教職員の時間外在校等時間の減少を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスへの意識向上から質の高い教育活動の実現を目指し、具体的な取り組みを定めることで、学校における教職員の働き方改革を推進していきます。

